

YPS2017のご案内

Young Perceptionists' Seminar (YPS) は、1972年に名古屋大学の学生を中心に発足した、若手知覚研究者の情報交換・討論・交流を目的とする合宿形式の研究会です。今年で第45回目の開催となり、歴史を持つ研究会になります。今年は首都大学東京・神奈川大学・慶應義塾大学の3校がお引き受けし、当日は東京女子大学を含む4校で運営することとなりました。

自称“Young”で、感覚、知覚、認知などの諸領域に興味をお持ちの方なら誰でも気軽に参加することができます。例年通り、通常の研究発表に加え、構想段階の研究の発表や研究のアイデアのみの発表（妄想発表）も歓迎いたします。

かの武者小路実篤が20年にわたり1年の半分を過ごしたゆかりの宿として知られる伊豆長岡いづみ荘にての開催といたしました。

皆さまにとって快適かつ有意義なYPSとなりますよう、準備委員一同、誠心誠意努めて参りますので、皆さま奮ってご参加ください。

記

1. 日程

8月18日（金）～20日（日）

2. 会場

実篤の宿 いづみ荘（静岡県伊豆の国市長岡 1045-1）

URL: <http://www.saneatunoyado.com>

交通案内：

- a) JR東海道新幹線・本線 三島駅 → 伊豆箱根鉄道駿豆線 伊豆長岡駅（修善寺行き 20分）
伊豆箱根鉄道駿豆線 伊豆長岡駅 → 伊豆箱根バス 温泉場上駅（送迎バスまたは路線バス 6分）
伊豆箱根バス 温泉場上駅 → いづみ荘（徒歩 0分）
- b) バスタ新宿 → 伊豆長岡・修善寺温泉ライナー 長岡温泉駅（修善寺行き 2時間 10分）
伊豆長岡・修善寺温泉ライナー 長岡温泉駅 → いづみ荘（徒歩 4分）
- c) JR東海道本線 沼津駅 → 伊豆箱根バス 温泉場上駅（伊豆長岡駅行き 40分）
伊豆箱根バス 温泉場上駅 → いづみ荘（徒歩 0分）
- d) 東名高速 沼津ICより国道136号線を下田方面へ 30分（自動車）
- e) 伊豆縦貫自動車道 長泉ICより伊豆中央道国道414号線を経由し 40分（自動車）

3. 参加費（予定）

学生 20,000円 有職者 30,000円

※食事代・宿泊費込み

※学振DC・PD等は有職者に含みます。

※参加者の人数によっては変更する可能性があります。

※関東以外からの学生参加については、出来る限りの割引を予定しています。

※参加者人数が50名に達した場合、申し込みを締め切らせて頂きます。

4. 参加・発表申し込み

参加・発表申し込みの受付は4月1日（土）に開始しました。

受付の締め切りは6月20日（火）です。

参加・発表申し込みは、大会ホームページの参加・発表申し込みフォームからご登録ください。

<http://yps2017.morima.asia/booking/>

※発表なしでの参加をご希望の方も歓迎します。

※原則、口頭での発表となりますが、人数によってはポスター発表を設ける場合もあります。

※発表概要は300字以内でお願いします。

5. 特別講演

今年は4名の先生方に特別講演を頂く予定となっております。講演だけの部分参加も受付しております（部分参加の場合も事前の参加の申し込みをお願いいたします）。

●鷺見成正先生

【御来歴】

1959年 千葉大学文理学部心理学専攻 卒業

1964年 慶應義塾大学大学院社会学研究科心理学専攻 修了

1964年 慶應義塾大学 助手（-1966年）

1966年 慶應義塾大学 専任講師（-1967年）

1967年 慶應義塾大学 助教授（-1977年）

1977年 慶應義塾大学 教授（-1997年）

1997年 慶應義塾大学名誉教授

1997年 日本女子大学 教授（-2001年）

2001年 帝京平成大学 教授（-2008年）

【研究テーマ】

運動視、知覚体制化など

【主な著書】

鷺見 成正（2013）. わが国の運動視研究: 1930-40年代を中心に行なわれた主な実験と使われた自作機器について 心理学史・心理学論, 14/15, 31-45.

大山 正・鷺見 成正（2014）. 見てわかる視覚心理学 新曜社

●狩野千鶴先生

【御来歴】

1957年 慶應義塾大学文学部哲学科心理学専攻 卒業
1959年 慶應義塾大学大学院社会学研究科修士課程 修了
1962年 慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程 修了
1966年 文学博士
1967年 アレキサンダー・フォン・フンボルト財団研究奨学金

西ドイツにあるミュンスター大学 University of Münster (ヴァストファーレン・ヴィルヘルム大学 Westfälische Wilhelms-Universität) のヴォルフガング・メッツガー教授 (Prof. Dr. Wolfgang Metzger) の許で研究 (-1968)

1978年 慶應義塾大学商学部 助教授

1982年 慶應義塾大学商学部 教授

1985年 スウェーデンにあるウプサラ大学 Uppsala University のグンナー・ヨハンソン教授 (Prof. Dr. Gunnar Johansson) の許で研究(-1986)

1999年 慶應義塾大学 名誉教授

【研究テーマ】

空間方位、自己運動知覚、運動軌道、仮現運動など

【主な論文】

Ogawa, T., & Kano, C. (1974). ANSCHAUICHE BESTIMMUNG DES "VORN" VON GEGENSTÄNDEN DURCH DAS VERHALTEN VON KINDERN (Behavioral determination of mae, " in front of" by Japanese children). *Japanese Psychological Research*, 16, 84-95. (in German)

Kano, C. (1991). The perception of self-motion induced by peripheral visual information in sitting and supine postures. *Ecological Psychology*, 3, 241-252. doi: 10.1207/s15326969eco0303_3

狩野 千鶴 (1988). 自己運動知覚と視覚刺激の運動特性: 視覚情報. *テレビジョン学会技術報告*, 12(20), 13-18.

狩野 千鶴 (1991). 自己運動知覚と視覚系運動情報. *心理学評論*, 34, 240-256.

●渡辺利夫先生

【御来歴】

1977年 同志社大学文学部文化学科心理学専攻 卒業

1980年 慶應義塾大学大学院社会学研究科心理学専攻 修了

1988年 カリフォルニア大学社会科学部認知科学科大学院博士課程 修了 (Ph.D)

1990年 慶應義塾大学環境情報学部 専任講師

2003年 慶應義塾大学環境情報学部 教授

【研究テーマ】

空間知覚と空間認知における数理モデル構成

【主な論文】

渡辺 利夫 (2008). 視空間および認知空間の幾何学モデル. *認知科学*, 15, 62-74. doi: 10.11225/jcss.15.62

Watanabe, T. (2006). Geometrical structures of photographic and stereoscopic spaces. *The Spanish journal of psychology*, 9, 263-272. doi: 10.1017/S1138741600006168

【主な著書】

渡辺 利夫 (2005). フレッシュマンから大学院生までのデータ解析・R言語 ナカニシヤ出版

渡辺 利夫 (2009). 知覚・認知モデル論 ナカニシヤ出版

●北川智利先生

【ご経歴】

1995年 東京都立大学人文学部心理・教育学科心理学専攻 卒業

1997年 東京都立大学大学院人文科学研究科修士課程心理学専攻 修了

2000年 東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程心理学専攻 単位取得退学

2001年 東京都立大学人文学部 助手 (-2003年)

2003年 東京都立大学より博士(心理学)を取得

2003年 日本学術振興会 特別研究員SPD (-2004年)

2003年 日本大学文理学部 研究員 (-2004年)

2003年 オクスフォード大学 アカデミック・ビジター (-2004年)

2004年 金沢工業大学情報フロンティア学部心理情報学科 講師 (-2005年)

2005年 NTTコミュニケーション科学基礎研究所 リサーチ・アソシエイト (-2009年)

2010年 NTTコミュニケーション科学基礎研究所 主任研究員 (現在)

【研究テーマ】

多感覚統合、身体知覚、知覚／認知の個人差、感情、マインドフルネスなど

【主な論文】

Kitagawa, N., & Spence, C. (2006). Audiotactile multisensory interactions in human information processing. *Japanese Psychological Research*, 48, 158-173. doi: 10.1111/j.1468-5884.2006.00317.x

Kitagawa, N., Igarashi, Y., & Kashino, M. (2009). The tactile continuity illusion. *Journal of Experimental Psychology: Human Perception and Performance*, 35, 1784-1790. doi: 10.1037/a0016891

【主な著書】

北川 智利 (2014). 非音声知覚における視聴覚情報の統合処理 岩宮眞一郎 (編) 音響サイエンスシリーズ 11 視聴覚融合の科学 (pp. 1-31) コロナ社

YPS2017 準備委員会

首都大学東京・神奈川大学・慶應義塾大学・東京女子大学 共催

首都大学東京大学院人文科学研究科 (代表)	村田佳代子
神奈川大学マルチモーダル研究所	草野勉
慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科／日本学術振興会	森将輝
東京女子大学大学院人間科学研究科	高橋あおい・大西まどか
慶應義塾大学商学部 (アドバイザー)	小松英海

【お問い合わせ先】 YPS2017 実行委員会 Mail: yps2017@yahoo.co.jp